

令和3年2月5日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 福島 秀治
 (コード番号: 8732 東証第一部)
 問合せ先 財務部長 権代 徹也
 (TEL. 03-4540-3804)

2021年1月次 月次概況(速報)のお知らせ

2021年1月次の当社グループの月次概況(連結ベース)を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	2020年3月期											
	2019年									2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	436	430	438	446	552	397	411	293	432	506	450	1,077
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	64,962	85,708	73,679	70,709	121,698	72,241	69,676	43,497	45,475	60,432	87,717	163,604
外国為替取引口座数 (単位:口座)	331,528	332,653	333,795	334,878	335,861	336,996	337,918	338,691	339,443	339,790	340,014	340,483
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	64,226	63,060	64,426	64,422	63,282	63,293	64,021	63,383	63,183	69,788	66,290	65,510
一般顧客	57,695	58,098	58,594	58,474	59,231	58,929	59,250	58,536	58,072	64,763	61,596	62,895
金融法人(BtoB)	6,531	4,961	5,831	5,948	4,050	4,363	4,770	4,847	5,111	5,025	4,693	2,614
マネパカード口座数 (単位:口座)	152,808	153,899	155,079	156,330	157,321	158,101	158,861	159,676	160,307	161,324	162,167	162,655

年 月	2021年3月期											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	407	303	318	282	309	310	273	355	495	413		
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	82,072	92,851	106,893	75,910	85,460	82,287	60,129	75,348	71,190	66,894		
外国為替取引口座数 (単位:口座)	340,605	340,735	340,825	340,830	340,840	340,768	341,218	341,138	341,086	341,521		
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	62,460	62,004	61,807	62,331	62,751	65,155	62,104	61,812	61,175	60,590		
一般顧客	60,227	59,654	59,267	60,022	60,364	63,044	60,121	59,849	59,365	58,733		
金融法人(BtoB)	2,232	2,350	2,539	2,309	2,386	2,111	1,982	1,963	1,809	1,856		
マネパカード口座数 (単位:口座)	162,828	163,034	163,058	163,086	163,138	163,159	163,034	162,996	162,802	162,492		

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引(CFD)の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高(原取引単位を米ドルに換算)及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとBtoB取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。
5. 2020年7月27日より連結子会社のコインエージ株式会社が暗号資産交換業者としてビットコイン現物販売所を開業しており、「営業収益」には2020年7月より同社の数値を含めて表示しております。

< 1月次の概況 >

1月の外国為替相場は、米ドル/円については、1ドル=103円台前半で取引が始まり、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため緊急事態宣言を発令する方向で検討しているとの報道によるリスク回避の円買い、また、サウジアラビアの原油生産量の自主減産発表によるリスク志向のドル売りから、6日には102円台半ばの安値を付けました。7日には米12月ADP雇用統計が予想外のマイナスに落ち込んだことで一時ドル売りが優勢となったものの、民主党が上下両院で圧倒的多数を占めるトリプルブルーによる大型財政政策の実現への期待感から米長期金利が上昇し、その結果円安が進み104円手前まで上昇しました。その後は、米金利の動向に連れて方向感の定まらない展開が続きました。27日のFOMCでは予想通り据え置きの内容となりドル円の動きは限定的となりましたが、28日に米新規失業保険申請件数が予想以上に減少したことで労働市場の回復が期待され、債券利回り上昇に伴いドル買いが進み29日に一時105円手前の高値を付け、104円台後半で月末を迎えました。一方、米ドル/円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については、英ポンド/円については概ね円安の方向で推移し、ユーロ/円と豪ドル/円については落ち着いた値動きとなりました。外国為替相場の変動率は、前月大きく低下した米ドル/円と豪ドル/円については若干回復したものの、英ポンド/円が前月から大きく低下し、全体としては低調な水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は営業日数が減少したことから前月比6%減少の668億通貨単位となりました。一方、営業収益は、新型コロナウイルスによる市場の混乱からの金利低下の影響が続く中、営業日数の減少や全体としての取引高当たり収益性の低下に加え、年末要因による短期金利の変動により前月大幅に増加となったスワップ収益の反動減等から前月比17%減少の413百万円となりました。また、外国為替取引預り証拠金は一般顧客分が減少、金融法人分が増加となり、全体では584百万円減少の60,590百万円となりました。

以 上